

かゝる時に際し、労働農民党をして、眞に抗軍固なる階級党たらしめ、日本農民党、社会民衆党の如き反動的政党的を撃滅し、労働大衆を全面的政治闘争に動員せしむる事は刻下の緊急事であるにも拘らず、麻生、望月氏等と共に新たに日本労働党を組織し、労働農民党と別個の分野をやらんとするが如きは、単一政党的主義に対する挑戦であり、労働統一戦線の攪乱を策するものと云はざるを得ない。

我々は日本労働党の指導者諸君が、若しも未だ階級的単一政党的主義に對する誠意を捨てないならば、速やかにその政党的を解体して、労働農民党の陣營に参加すべきである事を信するものである。

一九二六年二月二七

労働農民党支持 関東地方無産団体協議會  
中間党対策

労働農民党支持に関する件

〔理由〕

日本の資本主義は、後進的發展を遂げつゝ、も、必然にまた、世界資本主義との急激なる没落行程を合流しつゝ、ある。

これ故に、日本の無産階級は、未だ封建的遺制から脱却し切らざりしに、即ち未だ政治的自由を獲得せざるに、早くも反動的支配の下に置かれてゐる。

従つて日本の無産階級は、従来の経済的闘争より政治的(的)闘争へ、その運動を轉換しおければならぬし、また轉換しつゝ、ある。

然しおがら、未だ政治的自由を獲得せざるに、その心然に經過しおければならぬところのブルジョア民主主義獲得の闘ひをた、おはねばならぬ。

かくして我々は、ブルジョア主義の遺棄した自由獲得の闘